



忙しつつ！

図書館だより No8

令和7年12月号
大洲中学校図書館



今年も残り僅かとなりました



みなさんこんにちは。いよいよ12月を迎えました。泣いても笑っても、あと少しで「新年」を迎えます。来年の干支は「午(うま)年」です。午年は「飛躍」や「前進」を象徴する年とされています。馬が力強く駆け抜けるように、成長や成功が期待される年です。果して、来年は「飛躍」「前進」ができる年になるでしょうか？そうなってくれるといいですね！

それから、現在図書館では本年度2回目の景品抽選会(抽選日は12/18)をおこなっています。

図書館に来て本を借りるとカードにスタンプが1つ押され、スタンプが3つたまると抽選会に1回参加できる…というイベントです。希望の景品(雑誌類・出版社からの見本の本)がもらえるかどうかは、あなた次第です♪

また、冬休み中の「特別貸出」(12/18～新年1/6まで)も行います。冬休みは日数が短いので「一人5冊まで」と致します。冬休みのせいで“休みボケ”にならないようにするためにも、少しでもいいですから本を読んでみてはいかがでしょうか。“本”というと“小説！”と決めつけてしまう人もいるかも知れませんが、別に小説にこだわることはないと思います。下に記載しましたが、大人気絵本の1つ「大ピンチずかん」の第3巻が今回の新規購入本の中に入っています。絵本は幼児や児童のためだけのもの…、と見られがちですが、近年、絵本は小さな子供たちだけのものではなく、大人にとっても必要なものと考えられるようになって来ています。今までとは違った絵本の重要性が多くの人間に知ってもらえればいいな、と思っています。

【新規購入本のお知らせ】



①『スピノザの診察室』 夏川草介 著 水鈴社

雄町哲郎(おまち・てつろう)は京都の町中の地域病院で働く内科医である。三十代の後半に差し掛かった時、最愛の妹が若くしてこの世を去り、一人残された甥の龍之介と暮らすためにその職を得たが、かつては大学病院で数々の難手術を成功させ、将来を嘱望(しょくぼう)された凄腕医師だった。哲郎の医師としての力量に惚れ込んでいた大学准(じゅん)教授の花垣(はながき)は、愛(まな)弟子の南茉莉(まり)を研修と称して哲郎のもとに送り込む。



②『エピクロスの処方箋』 夏川草介 著 水鈴社

大学病院で数々の難手術を成功させ、将来を期待されながらも、母を亡くし一人になった甥のために地域病院で働く内科医の雄町哲郎。ある日、哲郎の力量に惚れ込む大学准教授の花垣から難しい症例が持ち込まれた。患者は82歳の老人。それは、かつて哲郎が激怒させた大学病院の絶対権力者・飛良泉寅彦(ひらいすみ・とらひこ)教授の父親だった。大学病院時代の過去にも触れながら”温かく、熱い”物語が展開していく。そして、タイトルにもなったエピクロスの哲学にも触れながら、雄町哲郎が患者の心を救っていく。



③『幸せな家族 そしてその頃はやった唄』 鈴木悦夫(えつお) 著 中公文庫

「どうとうぼくはひとりになった」という書き出でこの本は始まります。語り手は小学六年生の中道(なかみち)省一。ある時、保険会社のテレビCM“幸せな家族”的モデルに選ばれた中道家。しかし撮影開始直前、父親が変死。やがて不気味な唄の歌詞にあわせたかのように、次々に家族に死が…。謎めいた事件を追って最後にたどり着いたとき、あなたはきっと震え上がる。本書は1989年、幻の名作として知られていたものが今年ジュヴナイル・ミ

ステリとして復刊されたものである。 *ジュヴナイル・ミステリとは、主に10代の少年少女を主人公とし、若い読者を対象としたミステリ小説のこと。



④『大ピンチずかん 3』 鈴木のりたけ 絵 小学館

大ベストセラー絵本「大ピンチずかん」の第3弾「大ピンチずかん3」がついに登場。3巻目にもかかわらず、子どもを襲う大ピンチは後を絶たない。そんな時はうつかりメーターを見てみよう。今回初登場の新兵器だ。数値を見れば自分のせいかどうかが一目瞭然(いちもくりょうぜん)。次からは気をつけることができる。進化を続ける「大ピンチずかん」。3冊揃えて手元に置いておけば、もう安心だ！



⑤『ハリー・ポッター 魔法の呪文集』 インサイド・エディションズ 編 静山社

ハリー・ポッター映画全8作品で放たれた数々の呪文がこの一冊に！ 誰がどの映画で使用したのか、成功か失敗か、また、撮影時に使用されたイラストや貴重な写真もリストアップ。

さて、みんなは、いくつ覚えてるかな？



⑥『警視庁地下割烹 取調室のカツ丼』 田中啓文(ひろふみ) 著 角川文庫

警視庁の地下に存在するという謎の料理店「警視兆」。不幸にも割烹(かっぽう)課の「警視兆」に異動してきた花菱(はなびし)朝彦は、警察官にもかかわらず調理師免許を取得し、板前として働いていた。ある日、『落としの源さん』という伝説の元刑事が客としてやってきた。彼は、どんな厄介な容疑者も「カツ丼」で自白させるという。はたして、「カツ丼」にはどんな秘密があるのか。だが、朝彦と源さんは、奇妙な事件に巻き込まれてしまい…。

抱腹絶倒(ほうふくぜつとう)の書き下ろし警察小説。



⑦『マスカレード・ライフ』 東野圭吾 著 集英社

一流ホテル「ホテル・コルテシア東京」で開催される『日本推理小説新人賞』選考会の舞台裏は警視庁の極秘捜査と絡み合っていた。死体遺棄事件の重要参考人が新人賞の最終候補の一人との情報をつかんだ捜査一課が身柄(みがら)確保を狙い、賞を主催する出版社に働きかけ、同ホテルに変更させていたのだ。かつて捜査一課の刑事で、現在はコルテシア東京の保安課長となっていた新田浩介(にうすけ)は、捜査協力を求める警察からの情報の少なさに、刑事を定年退職後に探偵に転身した能勢(のせ)に事件の詳細調査を依頼する。そのころ、山岸尚美(なおみ)は、聞き覚えのある苗字を名乗る老齢の宿泊客を担当する。シアトル在住の新田の父・新田克久(かつひさ)であった。



⑧『13歳、わたしに恋はムズすぎる！』 汐月(しおづき) うた 著 集英社みらい文庫

神崎凪咲(かんざき・なぎさ)はボーイッシュな中学1年生の女の子。中学に入ったら、一番仲良しだった悠真(ゆうま)としゃべられなくなってしまった。女子の恋バナについていけない日々。悠真と席替えで隣になり、前みたいに話せるようになったら、今度はなんだか悠真がかっこよく見えちゃって、いつしょに帰るだけでドキドキが止まらない。これってもしかして恋!? 恋したら、オシャレしないといけないってホント!? 困った凪咲はクラスの美少女・乃愛(のあ)に相談してみたけれど…。 青春真っ只中！ノンストップ初恋ラブストーリー♡



⑨『大学4年間を「応援」に捧げた私が古生物学者になった話』 泉賢太郎 著 理論社

古生物(こせいぶつ)学者を目指すはずがなぜか大学で「応援部」に熱中。同級生に実力で大きく差をつけられた著者は、応援で培(つちか)つたガムシャラさを武器に、なんとか挽回(ほんかい)を図(はか)ろうとする…。

「すべての出遅れてしまった人」に贈るノンフィクションで、好きなことがあっても、その「好き度」がもっと高い人

を目の当たりにすると「自分は大(たい)して【好き】なわけじゃないんだな」と勝手に落ち込んでしまう。そんな経験はありませんか？でも「なんとなく好き」も立派な「好き」なのです。化石や古生物のことを「なんとなく好き」でいつづけて、古生物学者にまでなってしまった著者の体験談はさまざまな温度の「好き」を肯定してくれます。2学年所属の西澤先生のリクエスト本です。 *実は、西澤先生がこの本に出演している！？とのうわさ話が…(๑๑)



⑩『都市伝説解体センター 怪異を解き明かせ』 志田もちたろう 著 集英社みらい文庫

福来(ふくらい)あざみは、一見どこにでもいそうなふつうの大学生。どの学校のどのクラスにもきっと何人かはいる、ちっとも目立たない存在。しかし、彼女には誰にも言えない「ヒミツ」があった。それは…、あれが視(み)えてしまうこと。幽霊のように人の体をすりぬけるまっ赤な人影のようなものが見えてしまうのだ。幽霊が大の苦手なあざみは、この体质をなんとかするためワラにもすがる思いで都市伝説解体センターという、なんとも怪しげなところへとびこんでみることに。そこで待っていたのは、車いすに座っている怪しげな霧囲気の男性・センター長の廻屋渉(めぐりや・あゆむ)だった。あざみは彼に自分の体质について相談をしたけれど、解決するどころか都市伝説解体センターの新人調査員として働くことになってしまう。次々と舞いこんでくる、怪異や呪物(じゅぶつ)などの都市伝説にまつわる奇妙な依頼の謎を、はたしてあざみは解決することはできるのか!?

この他に、



『アニメ おさるのジョージ』

ハンス・アウグスト・レイ、マーグレット・レイ夫妻 絵
*3年生女子のリクエスト本 金の星社



『夜のピクニック』

恩田陸 著 新潮文庫



『二人一組になってください』

木爾(きな)チレン 著 双葉社

『本屋さんのダイアナ』

柚木(ゆづき)麻子 著 新潮社



『9月1日の朝へ』

椰月(やづき)美智子 著 双葉社



今年も残り少なくなりましたが、まだ、今年最後のBig Event「図書館抽選会」が残っています。みなさんのご来館を首を長くしてお待ちしております。(*^_^*)v

それでは、今年もたくさんのご来館、ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。そして、来年が今まで以上に良い年になることをお祈りいたしております。

図書館 渡邊満暢 m(_)_m